

2020年11月27日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第2回ALPSセミナー オンライン大学における教育・学修支援
参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 127名 アンケート提出数：45件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のオンラインシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・インターネットのみで学習することに対する配慮や質の担保方法
- ・教務を担当しているので、特に定期試験のところは参考になりました。
- ・オンライン教育の可能性を感じた。
- ・サイバー大学で行っている教育方向を詳しく教えていただきありがとうございました。
- ・勉強になりました。株式会社大学として運営する意味であるとか、授業運営とその支援の実際であるとか。
- ・オンラインで教員と学生の距離が離れているイメージがありましたが、履修状況の芳しくない学生には教員が直接電話連絡するという話を聞いて驚きました。
- ・オンラインだからこそできることもあるのだと改めて実感でき、今後はそういった点をうまく取り入れていきたいと思いました。
- ・フルオンラインの授業提供の中での学生サポート体制について知りたく、参加しましたが、サイバー大学の事例を伺うことができ、参考になりました。
- ・オンライン授業運営について、大変勉強になりました。これまで基本的なことを理解していなかったので、よかったです。
- ・フルオンラインでの大学運営の仕組みについて学べて有意義だった。特に学習支援の体制については参考になる点が多々あった。
- ・現在、オンラインで授業を行っているので、オンライン学修支援の具体的な事例をお聞きできて、とても参考になりました。
- ・すべてオンラインで完結できる大学の利点がよくわかりました。
また、国外から受講している学生に関する質疑応答時に、「留学生という概念がない」という川原先生の言葉に衝撃を受けました。国籍、在住する国や地域、母国語に関係なく、大学で学ぶ学生はすべて「本学の学生」という捉え方は、これからのグローバル時代に重要だと感じました。
- ・オンライン大学としての特徴やメリット、デメリットをうかがい知ることができた。
- ・2007年にはすでに完全オンライン大学が存在していたことに驚きました。試験について一定時間ごとに撮影する機能、確かに良いと思います。私は語学なので、入学時に声紋認識などしていただけると、課題や試験時の替え玉防止になるのではないかと考えています。
- ・オンラインでの授業、各自の進捗管理や試験（評価）の方法など、総合的にお話いただき、ありがとうございました。
- ・オンラインのみで、どのように大学として成り立っているのかを初めて知ることができ有意義でした。
- ・オンラインで授業を実施する大学の運用方法を知ることができたのはとてもよかった。
- ・オンラインにおける学習支援の仕組み、コンテンツ制作支援センターで著作権のチェックを行っていること

- ・フルオンラインの大学システムが、ここまで進化しているのかと驚愕しました。こころなしか、考えが参加前と比べて柔軟になったように思います。
 - ・サイバー大学におけるオンライン教育の概要
- オンライン教育における学生支援体制について
- ・サイバー大学がどのような大学であるか大変役立つ情報が多く、参考になりました。
遠隔授業における単位認定や試験実施（不正行為の考え方）、さらには今後は大学間連携、科目間利用なども進むように感じました。
 - ・オンライン受講を利用しての単位の進展が思いの外難しくなさそうであった。受講に関しても割と期間の幅が設けていて誰でも学習しやすいと感じた。また TA などを活用されていて、一方通行の学習形式とならない点が素晴らしいと感じた。
 - ・試験で顔認証など厳密な本人確認を行っていることが新しい発見だった。過去に他大学の通信教育で Web 試験を受けたがそこまで求められなかった経験もあり、文科省も細かい点まで言うのだなあと感じたことと、新しい技術というわけではないが IT 企業の支援でもないと導入する大学の負担はたいへんだなあと感じた。
 - ・サイバー大学の教育について理解できました。サイバー大学でもオンライン試験で毎学期問題が発生すると聞いて、社会全体のネットワークインフラを底上げしなくてはいけないことに改めて気づきました。
 - ・「教育・学修支援専門職」は大学によって、カラーが違ってくるのではないかと感じます。
 - ・オンライン授業でのサポート体制に興味があり受講しました。
やはり、どのような状況でも「個別対応」されていること、さらに相談窓口も設けられていること等、所属大学と同じように動かれていることを知り、根本は変わらないことを感じ取りました。
 - ・オンライン試験をすべてオープンブック形式としていること、また本人確認を厳格におこなっていることが非常に合理的だと感じました。
 - ・他大学のオンラインコンテンツを、必要に応じて自大学の教育に活用する取り組みについて、これまでは Moocs など「無償で利用できるオープンリソース」の活用がよいとされ、私立大学等改革総合支援事業においても推奨されているが、やはりクオリティの高いコンテンツには応分の対価を支払うべきである。
 - ・株式会社立大学ならではの視点。
 - ・オンライン大学のカリキュラムが詳細に理解できた。
 - ・オンライン大学ならではのメリット、デメリット
 - ・サイバー大学の教育に対する真摯な姿勢が分かりました。また、成績の相対評価を導入している通学型の課程で、一部フルオンデマンド授業を導入する際の成績評価は、検討する必要があると感じました。
 - ・当たり前のことかもしれませんが、オンライン大学ということで、学生管理のプラットフォームがよくできしており、素晴らしいと思いました。対面式が基本の学校法人形式の本学で同じようなプラットフォームを構築するのは非常にハードルが高い（経済的に）と思いました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・TAは各授業で、とお聞きしましたが、正しいでしょうか。かなりの人数になるとと思いますが、この運用については、具体を聞きたかったです。
- ・教員同士・スタッフ同士のコミュニケーションも直接のやりとりではなくオンラインなのか、という疑問がある。
- ・出席認定期間に関する質問をお送りしたのですが、時間の都合だったのか、回答がなかったため、その点の疑問が残っています。
- ・GPAを導入している中で、各科目を絶対評価することに、やはり困難を感じます。評価基準の設定について、もう少し詳しいお考えをうかがいたかったです。
- ・学習を継続させるため（卒業を後押しするため）に、TAや教員が細かいケアを行っているという点について、TAと教員の負荷が大きく大学（組織）からの無言の圧力によってオーバーワークを強いられていないのか心配になりました。
- ・この講演を聞いたうえでの質疑応答が16時を過ぎてしまったため、別の業務が入り、聞くことができなかった。この部分が一番聞きたかった。本部にいる事務局の体制及び日々の業務について知りたかった。
- ・完全にオンライン授業となった2020年、多くの学生が「大学生活」を求めて対面授業の再開を求める様々な要求が寄せられます。高校から直接入学する学生さんの大学生活への考え方がもっと知りたいと思いました。
- ・聞きにくいことですが、途中で投げ出す学生（いわゆる「退学者」や「休学者」）は、どのくらいの割合になるのでしょうか。むろん、比較する数字がないので、それが多いたも少ないとも判断できませんが。コロナ禍で、急にオンライン授業になって当惑している学生と、自らが進んでオンラインの大学に進んだ学生とは、意識が異なるのだらうと思います。
- ・質問しそびれましたが、設置基準ではオンラインは60単位までだと思いますので、特区としての特例により認められているということだったのでしょうか。
- ・授業外教育資料の提供方法について、図書館的な教養を涵養するための仕組みはどうなっているのか。
- ・疑問点と言うよりは希望のような回答になるのですが、セミナーでは大学の概要などに関するお話だけでなく、経緯などの、よりざっくばらんなお話をお聞きできましたら、よりありがたいなとも思いました。
- ・大学設置基準第32条第5項で遠隔授業の単位は60単位を超えないこととなっていますが、今回のコロナの影響により各大学は、遠隔授業の単位認定率が高まっているのでしょうか。
- ・「教育・学修支援専門職」は専門職ということで、今後異動がないという位置づけなのでしょう。
- ・サイバー大学院設置予定の有無
- ・聞きそびれただけでもかもしれませんが、図書館ではどのような取り組みをされているかお伺いたかったです。
- ・学修状況の把握及び本人確認については、通学型の課程で一部の授業をフルオンデマンドで実施する場合、サイバーキャンパスと同等のシステムを導入しなければならないのでしょうか。質保証は、最低64単位の面接授業で行うという考え、サイバーキャンパスほどのシステムは求めらないと考えてよいのでしょうか。
- ・TAや教員が欠席がちな学生へ連絡をするというお話がありましたが、教員の皆さんに負担ではないのでしょうか。そのようなことも授業担当教員の責任としているのかとは思いますが、先生方は余裕はあるのでしょうか。先生方は持ちコマは何コマくらいなのでしょう。本学で同様の形でのサポートを行うことは教員の負担面からして困難ではないかと思いました。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。
- ・ご講演を聞いて、誰／どの部署がどのような対応をするのか、明確にし、学生の相談が来た場合に、すぐに関連する人／部署につなげるよう、組織の整理が必要だと思いました。
 - ・学習支援に対して興味があること、意欲があることが最も大切だと思う。そのために、担当する教員、学生に対して「なぜこの仕組み、支援が大切なのか」という点をしっかりと説明して理解してもらうことが重要だと思う。
 - ・オンラインで授業を行う場合、学生の支援サポート体制が大変重要だと思います。
 - ・学生の学ぶ意欲をいかに持続させるか、少しのサポートで脱落しないケースに繋がること、など、教職員の意識が大事だと考えます。
 - ・今後のオンラインによる大学教育の在り方、小規模大学ながら他分野にわたる授業設計など参考になる面が大きかった。
 - ・様々な学修困難を抱えた学生さんがかなり集まっている印象がありました。(困難の内容によっては他大で立ち行かなくなった人も受講を試みているのではないのでしょうか) LD、強迫神経症、自閉症(認知が独特でした)などの学生さんに対応したことがあります。個人では体当たりです(円形脱毛症になりました)サポートノウハウを大学・教員間で共有いただけると素晴らしいと思いました。
 - ・終わりのQAでお答えいただいておりましたが、うまくいっていない学生をひっぱりあげるのは、最終的には担当教員などの個人的な意欲や費やせる時間(=ほかの何かを犠牲にする時間)などにかかってくる課題なのではないでしょうか。
 - ・学生のモチベーションの支援は人海戦術であることを知り、学生支援の重要性を改めて感じた。一方で、一般の大学におけるIT技術支援の能力をいかに向上させるのかも課題である。
 - ・質問のしづらさ、一方通行学習(受講のみ)になりがちに感じる。主に動画配信授業。
 - ・教育・学修支援といっても多種多様なので一概には言えないが、学生への支援という点ではこれを充分に行うためには一人一人の学生がかかえる個別の問題に対応することが必要になると思う。スタッフの資質や能力も大事だがそれ以前に人数が足りてないのではないかと。大学入学者数の8割は私立大学に進学するが、国立大学に比して圧倒的にST比が低いし、そもそもマスプロ教育を前提にしているので個別指導にそぐわない組織であるように感じる。その中でスタッフは出来るだけの努力はしていると思うが、教員への支援という点では、個人としていろいろ頑張っている先生方がいることは承知しているが(この間の遠隔教育でも)、組織として取り組んでいる例は、昔、名古屋大学版ティーチングティップスが話題になったことを知っている程度であまり知識は無い。やりたい人だけやっているという認識です。
 - ・教育・学修支援のためには、専門的な知見が必要だと考えています。本学では、専門家ではない教員(熱意はある)が、思いつき・思い込み・個人的経験に基づいて実践に走る傾向があります。また、経営側は「効果」を求める傾向にあるのですが、効果測定が容易ではないことが理解されていません。悪しきエビデンス主義だと思います。
 - ・アカデミックアドバイジングの取組み(創価大学、立命館大など)
 - ・教育・学修支援の在り方については、どうしても大学間で類似事例が多くなってしまおうと思うが、独特なアイデアで学生にサプライズと感動を与えられるような支援ができないか、そんなことを日々考えています。
 - ・障がいを持つ学生への接遇について研修が必要と感じている。ちょっとした言い回しが誤解を生むことも多い
 - ・大学はオンラインよりも、教員と学生が直にコミュニケーションすることでモチベーション等が上がり、学習等においても相乗効果が増すように思う。
 - ・学生の話をしっかり聞く、傾聴する能力が不可欠と考えています。

4. 本日のオンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・全く不便を感じなかった。
- ・初めてオンラインセミナーを受講しました。会場で行う講義形式のものよりも集中しやすかったと感じています。
- ・オンラインですが、最近慣れてきたので、不便に感じることはないです。
- ・何人が受講されているのかわからなかったのですが、それは知りたかったです。
- ・改善してほしいことはありません。途中休憩を挟んで質疑応答の準備をしてくださる点など、とてもよい構成だと思います。
- ・時間内に収まるように時間の管理をしてほしい。
- ・神楽の鈴のような音がしていたのですが、シャツの襟にマイクが当たるためではないかと思いました。(それほど不快な音ではないので大丈夫でした。)
- ・ありません。快適でした。
- ・質疑応答の時間に若干余裕がなかったように思うため、質疑応答(回答)の時間を、もう少し多めにとってもいいのではないかと思います。
- ・サイバー大学の事例説明に終始してしまい、思ったような学生の心理面をケアするような職員の取り組みなどが見えなかった。大学職員としてはそのような面も見ることができたら、更に充実したセミナーになったように思う。
- ・出来れば随時、チャットに書き込みができ、また、それを参加者がリアルタイムに共有できると良いかと思えます。
- ・音声は若干聞きづらいと感じた
- ・今回は特にありません。ただ声がクリアに聞こえることは大事なので、これからも気をつけていただきたいです。地方にいと移動時間や費用の問題でなかなか首都圏で開催されるセミナーに参加できないので、コロナが収束してもオンラインでの開催は続けてほしいです。
- ・14時開始かと勘違いして、しばらく音楽を聴いていました。30分前から接続可能にするのは早いのではないのでしょうか。最後の質疑応答で切断されてしまいましたが、こちらのwifiの問題なのでいかんともしがたいことです。
- ・もう少し詳しく勉強したいので関連資料、書籍等をご案内頂ければ幸いです。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・質疑応答の時間が十分に取られてとても良かったと思います！お聞きしたいことが聞けました！
- ・大変参考になりました。
- ・非常に興味深く聞かせてもらいました。ありがとうございました。
- ・もしかしたら、お話があったのかもしれませんが、何人ぐらいの応募(受講)しているのかが分かると、嬉しいです。聞いている方のモチベーションもあがるような気がします。
- ・講義もわかりやすく、竹内先生の進行も丁寧で非常によかったと思います。
- ・大変、参考になりました。
- ・大変参考になるお話でした。ありがとうございました。
- ・毎回、興味深いテーマを設定していただきありがとうございます。
- ・有意義な内容、ありがとうございました。

